



ち あか 血が赤いのはどうして

せつけっきゅう なか 赤血球の中にあるヘモグロビンのため

ち けつえき なか せつけっきゅう ちい ちい さいぼう ち あか せつけっきゅう
血(血液)の中には、赤血球という小さな小さな細胞があり、血が赤いのは、赤血球の
なか ちい あか
中にある、ヘモグロビンというものが赤いためです。

たいせつ やくめ ヘモグロビンの大切な役目

にんげん こきゅう い す くうき はい さんそ と だ からだ
人間は、呼吸をして生きています。吸いこんだ空気は、肺で酸素だけが取り出され、体の
なか と
中に取りこまれます。

にんげん い くうき なか さんそ たいせつ にんげん からだ じぶん
人間が生きていくためには、空気の中の酸素がとても大切なのです。人間の体は、自分の
からだ うご
体を動かすためのエネルギーを、いつもつくっています。そのエネルギーをつくるために
ひつよう どう さんそ けつえき さんそ からだ はこ たいせつ やくめ
必要なものが、ぶどう糖と酸素です。血液は、この酸素を体のすみずみにまで運ぶ、大切な役目
をしているのです。

しかし、この血液がすべて赤いわけではありません。血液の中で、赤い色をしているのは、
せつけっきゅう なか ちい あか いろ
赤血球とよばれるもので、その中にふくまれている、ヘモグロビンというものが赤いため、
けつえき あか み
血液は赤く見えるのです。

ヘモグロビンはたんぱく質ですが、鉄分をふくんでいて、血液の仕事である、酸素を体の
はこ たいせつ やくめ
すみずみにまで運ぶ、大切な役目をはたしているのです。(監修・保志 宏)

